

研究テーマ

よりよい自分を求めて
進んで運動に取り組む児童の育成を目指して

指宿市立指宿小学校

〒891-0311
指宿市西方4692-1
TEL 0993-25-2003
FAX 0993-25-2010

1 実施内容（計画、活動、対象、主な内容等）

(1) 教科体育の充実

- ア 学習指導を系統的に行うために、各学年で身に付けさせたい内容を明確にした。
- イ 児童の実態をより正確に把握するために、意識調査・実態調査の在り方やそこから明確になった運動の苦手な児童への手立ての方法をマニュアル化した。
- ウ 誰でも同じ流れで学習が展開できるようにするために、一単位時間の学習過程や指導のポイントを明らかにした。
- エ 児童が自分の課題をもって意欲的に学習できるようにするために、ICT や連続写真を活用したり、場の構成を工夫したりした。

(2) 教科外体育での取組

- ア 児童が自分の体力の実態を把握し日常の運動に生かすために、体力ナビを活用して個人目標を設定したり、年2回（2回目は課題種目のみの実施）の体力テストで変容を確認したりした。
- イ 児童が運動の積み上げを確認できるようにするために、個人ファイルを作成し、ワークシート等を6年間引き継げるようにした。
- ウ 運動の機会を充実させるために、朝の「体力のつくり」の時間に、児童会が中心となってチャレンジかごしまの種目から「長縄エイトマン」を実施した。
- エ 遊具を使っていろいろな運動ができるように、掲示板をリニューアルし、児童が取り組みやすいものに改善した。
- オ 意欲や技能を高めるために、指宿市「健幸づくり推進室」と連携して水泳教室や陸上教室などを開催し、専門的な立場から児童に指導をしてもらった。

(3) 家庭・地域との連携

- ア 児童の運動習慣や運動への意識の変容を確認して今後の取組に生かすために、意識調査や運動習慣調査を行い、結果を学級PTAや保健便り等で報告した。
- イ 児童や保護者へ家庭での運動に興味をもってもらうために、指宿市「健幸づくり推進室」のインストラクターを招聘して教育講演会を実施した。
- ウ 家庭での運動を啓発するために、一家庭一運動の取組を行うとともに、体育便り「JUMP」を発行し、季節に合った運動を紹介するようにした。

2 実施上で工夫したこと

(1) 教科体育において

本校の課題である瞬発力、持久力、投力の改善を図るために、ゲーム及びボール運動領域に絞って研究を進めた。また、年3回の研究授業に加え、全ての担任が対象領域を指導する際に視点に沿った指導計画を作成し、実践することで意識を高められるようにした。

(2) 教科外体育において

総務委員会→児童会テーマ「強い体と優しい心の指宿小」の設定
体育委員会→朝の体力つくり「長縄エイトマン」の実施
保健委員会→ノーメディアデーの実施や生活リズムチェックの啓発
放送委員会→朝の体力つくりへの呼びかけ
など、児童が主体的に体つくりへ取り組むことができるような環境を整えた。

- (3) 家庭・地域との連携において
 6月：教育講演会の実施
 7月：夏休みの課題に親子運動の導入
 9月：一家庭一運動の実施（1月に結果報告）
 2月：家庭でできる運動プログラム（冊子）の配布
 年間を通して、継続的に取組が実践できるように計画した。

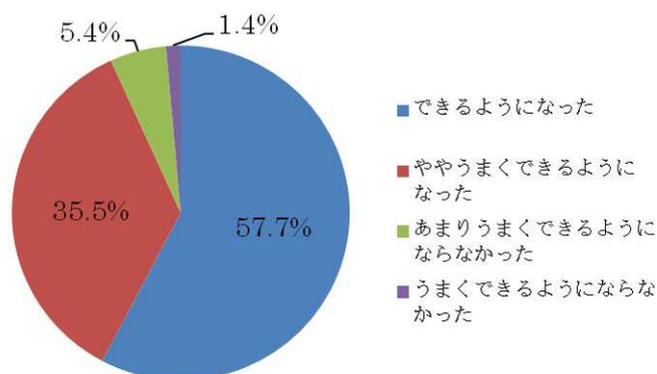
3 主な成果

(1) 教科体育において

ア 指導内容を明確にしたことで、教師が単元内で何を指導すればよいのかがはっきりした。

イ 移動や準備・片付けといったしつけが徹底されるようになってきたことで、マネジメントの時間が少なくなり単位時間内の運動量が確保されるようになってきた。

ウ 設問「体育の授業では、運動やスポーツが今までよりもうまくなるようになりましたか。」



授業の充実により、技能の向上につながっていると考えられる。

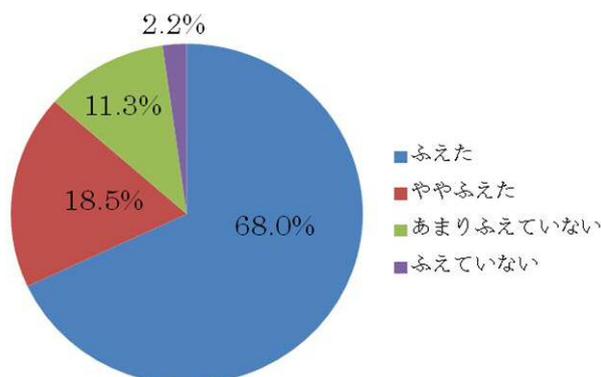
(2) 教科外体育において

ア 朝の体力づくり時間に多くの学級が「長縄エイトマン」に挑戦するようになった。また、長縄を苦手としている児童が少なくなったことで新記録が生まれ、意欲の高まりも見られた。

イ 水泳教室やかけっこ教室など、専門的な知識をもった外部講師に指導をしてもらうことで、運動が苦手な児童も楽しく活動することができるようになった。

ウ プロバスケットチーム「レノヴァ鹿児島」の方々など一流スポーツ選手との触れ合う機会を設定したことで、児童に目標に向かって頑張ることの大切さを伝えることができた。

エ 設問「今の学年になって、外で遊ぶことがふえましたか。」



教科体育の楽しさが、運動の日常化により影響を及ぼしていると考えられる。

(3) 家庭・地域との連携において

ア 教育講演会や体育便りなどで家庭での運動に対する啓発活動を継続的に行ってきたことで関心をもって一家庭一運動に取り組む家庭が増えてきている。

イ 生活チェックシートや運動習慣調査、ノーメディアデーなどの取組を通して、生活リズムを見直し、改善に向けた取組をはじめ家庭が増えつつある。

【ノーメディアデー実施後の児童の感想から】

いつも9時以降は、ゲームなどを行っているけど、このノーメディアがあってゲームなどをせず、少し早寝・早起きができました。これからも続けていきたいです。

4 実践の様子（写真・絵図・グラフ等）

教科体育の場面において

【場の設定と運動量の確保】



苦手な児童も意欲的に参加できるように段階的な場の設定を心がけている。

【基本的なしつけの徹底】



座り方や移動の仕方、話合いの環境など、基本的なしつけを共通で実践している。

教科外体育の場面において

【長縄エイトマンに挑戦】



全ての学級において新記録が次々と生まれ、児童の意欲の向上につながっている。

【外部講師を招聘しての陸上教室】



専門的な知識をもとに、児童に分かりやすく運動のポイントを教えてください。

地域・家庭との連携において

【一家庭一運動の取組】

紹介しよ！「一家庭一運動」

どんな運動？ フラフー

期間中31回くらい実施

チャレンジした人
(家族の名前を記載しよう)

名前	()

運動の様子（絵や写真で紹介しよう！）

☆ひとこと☆ ※「ひとこと」は保護者の方が記入しても構いません。
9月から始めて、なかなかできる子定かしたか、サボリが少なくなったか、できなくなった。子供たちは、5分でも10分でも続けられたら、すごいなあと思います。これからでもできたら続けたいです。

体力向上プログラムを活用した親子運動だけでなく、自分たちで運動を設定する家庭が増えてきている。

【体育便り JUMPの発行】

JUMP!

～子どもたちの未来のために～

運動の時間、体育の時間、25分、24分

今からでも間に合う！かけこ上達法！
～いつやるか？今でしょ！～

上達ポイント 近頃、「走ること」が得意な子どもは、走ることの楽しさを味わうことができています。走ることの楽しさを味わうことができています。走ることの楽しさを味わうことができています。

近頃、「走ること」が得意な子どもは、走ることの楽しさを味わうことができています。走ることの楽しさを味わうことができています。走ることの楽しさを味わうことができています。

近頃、「走ること」が得意な子どもは、走ることの楽しさを味わうことができています。走ることの楽しさを味わうことができています。走ることの楽しさを味わうことができています。

B4版で発行し、左側に校内外の行事や少年団の表彰、右側に家庭でできる運動の紹介を掲載している。